

あすを拓く

アートなトイレを世に送り出し
世界から注目を集める企業が宮城にある。
その斬新なアイデアの原点は
「誰もがきれいに使ってほしい」との思いだった。



泰光住建株式会社

クリエイター兼 CEO
あかま こうじ
赤間 晃治さん

プロフィール
1978年、仙台市泉区生まれ。2001年、父親から経営を引き継ぎ、有限会社泰光住建（当時）の代表に就任。2014年からデザイントイレ事業に着手する。「INDEX 2015デザインアワード」キッチン&バス部門で2位受賞、「A'DESIGN AWARD & COMPETITION 2017」でBronze Award受賞、「OMOTENASHI Selection 2017」金賞受賞など、国内外のコンテストや展示会で高い評価を受ける



さまざまな絵柄があるアートレット。浮世絵のような複雑なデザインも再現可能だ

泰光住建株式会社では、同社が立ち上げた装飾トイレのブランド「アートレット」をフランスで本格展開させるため、着々と準備が進んでいる。

「いまフランスでは、公衆トイレを中心に温水洗浄トイレの普及の機運が高まりを見せています」と代表の赤間晃治さんは説明する。

同社では、スイスやドイツのメーカーが製造した温水洗浄トイレを装飾し、フランスへ輸出する計画に取り組んでいる。2018年11月にパリで開催された展示会を足掛かりに、市場開拓を目指し、20年の東京オリンピックやドバイ万博への導入や設置にも挑戦中だという。

「メーカーとの共同カタログが完成して、アートレットの商品価値が認められたと実感しています。とてもうれしいことです」と赤間さんは手応えを感じている。

構想から実現へ 震災を契機に開発に着手する

23歳の時、父親が立ち上げた泰光住建を継いだ。もともとファッション業界を志していた赤間さんは、会社を継いでからも、「デザインに関わる仕事がしたい」と、新たな事業を模索していたという。

かつて、「トイレを綺麗にすると集客率が上がる」と、友人が経営する飲食店のトイレのデザインを頼まれたことがあった。「その時は、便器の表面にカットイングシートを張り付けてデザインを施したのですが、洗剤などの影響によってシートがはがれやすく、3カ月に1度は張り直さないときれいな状態を保てませんでした。そこで、一枚のフィルムで全体を覆うように張り付けるというアイデアを思いつきました」

当時の構想を実現させようと思いついたのは、東日本大震災がきっかけだった。

赤間さんは、震災が発生した3日後から避難所などのトイレや下水の復旧で多忙な毎日を送っていた。利用者のモラルの低下から、何度修理しても、つまりや汚れが後を絶たなかったからだ。中には汚れたトイレが嫌で我慢したことにより、体調を崩した人もいた。その話を聞いた赤間さんは、「誰もがきれいに使いたくなるトイレ」の必要性を強く感じたという。

「そこで、以前構想にあったデザイントイレなら、みんながきれいに使おうと思うのではないかと考えたのです」

デザイン技術と施工技術を 試行錯誤し製品化にこぎつける

こうして、デザイントイレの開発を始め、た赤間さんは、いきなり大きな壁に直面した。複雑な形状をしている便器の表面に1枚のフィルムを張り付けるためには、高度な技術が必要だったからだ。

「さらに、絵柄をプリントしたフィルムを張り付けると、ゆがみやしわができたり、フィルムのつなぎ目で絵柄が途切れてしまったりして、忠実な絵柄を再現できないことが分かったんです」

そこで赤間さんは、コンピュータグラフィックスの技術を用い、数年かけて独自のアルゴリズムを開発。トイレのふたを閉めた状態で絵柄が完成されて見えるような展開図を作り上げた。そして、職人が1日かけて丁寧にシートを張り、しわのない美しいデザイントイレを完成させた。

こうして誕生した斬新なデザイントイレは、英語で芸術を表す「アート」と、イタリア語でトイレを指す「トイレッタ」を合わせて「アートレット」と名付けられた。「独自のアルゴリズムと、職人が試行錯誤を重ねて確立した技が融合し、アートレットの美しいデザインが可能になりました」

世界市場へのチャレンジ メーカーやバイヤーの関心を集める

当初アートレットを、仙台市内で展開しよ

うと考えていた赤間さん。展示会での反応は上々であったが、「すごい、面白い」とは言ってくれても、購入に至らないケースが多かったという。

「アートレットの技術は、自分が知る限り世界でうちにしかないはず。それなら、その付加価値を認めてくれる市場に打って出ようと海外に目を向けました」

赤間さんは世界的な観光都市で富裕層も多い、アラブ首長国連邦のドバイに注目。ここを情報発信の拠点にして、世界中に商品を広めていこうと、2015年に日本貿易振興機構（JETRO）の採択を受け、ドバイで開催された展示会に出展した。赤間さんの狙い通り、ドバイでの展示会では、多くの関心を集め高い評価を受けた。その後、イタリアやフランスなどで開催されたインテリアの展示会に出展し、注目を集めた。

アートレットの開発を始めたばかりのころは、トイレにデザインを施す発想を周囲に理解してもらえなかった。うまくいかないだろう」と厳しい声もあった。「でも私は、いつか必ず売れるという確信を持ってやってきました。こうして目に見える結果が出て、とてもうれしく思っています」と話す赤間さん。「仙台の小さな会社でも、独自の技術やアイデアがあれば、全国や世界から声を掛けてもらうことができる。これからは、あっと驚くようなアイデアで世界中から呼ばれる企業にしていきたいです」と熱く語った。



職人の手作業によって丁寧にフィルムを張り付け、絵柄を忠実に再現していく



2018年11月にパリで開催された展示会でも多くの人から注目を集めた



「英語力を生かし、地元仙台から世界へ挑戦する若者たちを採用していきたい」と話す



泰光住建株式会社

1987年に水道管工事会社として設立。仙台市優良公認店表彰を7度受賞、仙台市水道事業功労者表彰(2016年)を受賞した高い技術で、生活に欠かせない水道・排水を支える

所在地
仙台市泉区長命ヶ丘1-17-3
TEL 022-378-4543
http://www.taikoujuken.com/jp/

